

平成 25 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス				
教科目名	日本語	担当教員	一般科目 (人文) 教員	
学年学科	3年 留学生	通年	必修	3単位
学習・教育目標	(C-1) 70% (A-1) 30%			
授業の目標と期待される効果： 幅広い日本社会に関するテーマに沿った日本語の文章に接することで、「読む・書く・話す」それぞれの日本語能力の向上を目指す。 ① 日本語の語彙力が身に付く。 ② 日本語の文法に則った作文ができる。 ③ 日本語での討論・発表能力が向上する。 ④ 日本文化への理解が増す。		成績評価の方法： 前期：中間試験 100 点＋期末試験 100 点 ＋課題・小テスト (50 点～100 点の範囲に収めるものとする) 後期：中間試験 100 点＋期末試験 100 点 ＋課題・小テスト (50 点～100 点の範囲に収めるものとする) 学年：前・後期の重みを等しくして合計し得点率 (%) で成績をつける。		
		達成度評価の基準： 教科書レベルでの授業内容の理解について、以下の項目に関する試験・課題に対して 6 割以上の正答レベルまで達していること。 ① 各課のテーマを理解し、要旨を把握できているか。 ② 各課の新出語句を覚えているか。 ③ 各課の重要文法を正しく理解・運用できているか。 ④ 日本語と日本文化についての関心と理解が深まっているか。		
授業の進め方とアドバイス： 授業は、教科書と板書を中心に行うので、各自学習ノートを充実させること。特に、教科書各課の新出語句については、予め意味を調べておき、毎回の授業時に分からない点を質問できるように準備しておくこと。				
教科書および参考書： テーマ別中級から学ぶ日本語 (研究社 2003) 他にプリント、辞書等。				
授業の概要と予定：前期				
第 1 回：〈たとえる〉動物を使った比喻をテーマとして				
第 2 回：〈つたえる〉日常生活での伝達機能をテーマとして				
第 3 回：〈はたらく〉仕事と家庭の問題をテーマとして				
第 4 回：〈あきれる〉日本人の生活習慣・価値観をテーマとして				
第 5 回：〈たべる〉食べることの位置づけをテーマとして				
第 6 回：〈あそぶ〉日本人の遊びに対する考え方をテーマとして				
第 7 回：〈いう〉言葉の使い方をテーマとして				
第 8 回：前期中間試験				
第 9 回：〈かざる〉外見が人に与える影響をテーマとして				
第 10 回：〈あらわす〉色の効用とその利用をテーマとして				
第 11 回：〈いきる〉生きがいテーマとして				
第 12 回：〈こまる〉情報社会と個人情報テーマとして				
第 13 回：〈あつまる〉人の集まる形や動機テーマとして				
第 14 回：〈つかう〉機械と人間の役割分担テーマとして				
第 15 回：前期の総復習と期末試験についての説明				
期末試験				
第 16 回：フォローアップ (期末試験の解答の解説など)				

授業の概要と予定：後期
第17回：〈であう〉出会いの意義をテーマとして
第18回：〈わかりあう〉「ウチ／ソト」意識をテーマとして
第19回：〈がんばる〉仕事優先、経済優先の社会をテーマとして
第20回：〈わかる〉人間をタイプに分けることをテーマとして
第21回：〈かこむ〉生活様式の変化と家庭の団らんをテーマとして
第22回：〈おもいだす〉思い出をテーマとして
第23回：〈しらせる〉生活へのテレビの影響をテーマとして
第24回：後期中間試験
第25回：〈まもる〉環境汚染・自然破壊をテーマとして
第26回：〈ふれあう〉旅の持つ意味と魅力をテーマとして
第27回：〈うたう〉歌と過去・現在の生き様をテーマとして
第28回：〈なおす〉医療技術の進化をテーマとして
第29回：同上 生きることと生かされることをテーマとして
第30回：〈のびる〉日本経済の発展をテーマとして
第31回：後期の総復習と期末試験についての解説
期末試験
第32回：フォローアップ（期末試験の解答解説など）